

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6 年 8 月 16 日 更新

事務事業名		ボランティア表彰等事業				☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	自治の健康			所属部	市長公室	課長名	佐藤 美和
	施策	1	市民参画によるまちづくりの推進			所属課	企画課	担当者名	宮崎 早香
	施策の柱	1	地域づくり(まちづくり)人材の育成			所属班	企画広報班	(内線)	1254
予算科目		会計一般	款 2	項 1	目 13	事業連番 11542	根拠法令	合志市ボランティア表彰実施要綱	
終了、開始年度		☐ 5年度で終了 ☐ 5年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 23 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	市長マニフェスト項目として事業を企画した。平成23年10月19日に合志市ボランティア表彰実施要綱を制定した。ボランティア活動を通して社会に貢献されている個人や団体の更なる活躍を期待し、感謝の気持ちを表すとともに、広く市民へボランティア活動の輪を広げていくことを目的として、熊本県ボランティア月間である11月に、年1回の表彰を行なう事業である。 平成23年度は市ボランティア連絡協議会に推薦を依頼し、市社会福祉協議会主催の「ふれあい館フェスティバル 2011」におけるイベントとして合併5周年の節目の年に第1回表彰式を実施した。平成24年度以降は、表彰式に合わせボランティア実践している団体等の事例発表を行ない、合志市文化会館で表彰式を実施している。平成 27年度は合併10周年記念事業として「合志市秋まつり」内で行った。平成28年度は、熊本地震により例年開催しているウィーブルの被災により、ふれあい館でふれあいフェスティバル 2016と合同開催とした。また、菊池恵楓園盲人会からの推薦があり、被推薦者が大阪在住のため、別に感謝状贈呈式を行った。 令和2年度はふれあいフェスティバル開催中止のため、市役所にて表彰式のみ行った。 令和3年度は市制施行15周年記念式典と合同で市総合センターウィーブル文化会館にて行なった。 令和4年度は合志市社会福祉協議会主催ふれあいフェスティバル 2022内にて行った。 令和5年度は合志市社会福祉協議会主催ふれあいフェスティバル 2023内にて行った。 令和6年度からは、11554 (合志市ふるさとサポーター事業)、11555 (人材(財)バンク登録事業)を統合。
【業務の流れ】	・例年8月ごろ、各区(自治会)、市ボランティア連絡協議会、市社会福祉協議会へ推薦依頼を行う。 ・推薦された候補者書類審査により決定し、ボランティア表彰名簿に登録する。 ・例年11月に表彰式を行う。
【主な予算費目】	需用費
【意見や要望】	

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO) 第13回表彰式(令和5年11月19日)で4団体・8個人について、活動に対する功績をたたえ表彰を行い、広くボランティアの精神の浸透を図った。		6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 表彰式の実施
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 個人表彰	人	合志市ふるさとサポーター事業(11554)、人材(財)バンク登録事業(11555)を統合したため事業費の増
イ 団体表彰	団体	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 ボランティア活動を行っている個人と団体	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
	人	→ ア ボランティア活動を行っている個人(社協ボランティアセンター登録数)
	団体	→ イ ボランティア活動を行っている団体(社協ボランティアセンター登録数)
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 感謝の気持ちを表すことで市民にボランティア活動を広げる	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
	人	→ ア ボランティア年間活動延べ人数(個人)(社協ボランティアセンター実績)
	人	→ イ ボランティア年間活動延べ人数(団体)(社協ボランティアセンター実績)
*③成果指標設定の理由と 6年度目標値設定の根拠 社協主催の「ふれあいフェスティバル2018」の中で実施し、日程を考慮し平成29年度は平成28年度実績程度と設定した。		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	3年度 実績(決算)	4年度 実績(決算)	5年度 目標(当初予算)	5年度 実績(決算)	6年度 目標(当初予算)	7年度 予定	8年度 見込	9年度 見込	
① 活動指標	人	7	5	10	8	10	10	10	10		
	団体	6	2	5	4	5	5	5	5		
② 対象指標	人	80	80	140	80	140	140	140	140		
	団体	90	90	125	90	125	125	125	125		
③ 成果指標	人	1,100	1,100	2,000	1,100	2,000	2,000	2,000	2,000		
	人	17,000	17,000	10,000	17,000	10,000	10,000	10,000	10,000		
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	31	29	82	81	104	100	100	100
	(A)事業費計	千円	31	29	82	81	104	100	100	100	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	22	22	22
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	19	19	19
		正規職員従事人数	人	6	5	10	3	10	10	10	10
	人件 費	延べ業務時間	時間	153	168	100	115	100	100	100	100
		(B)人件費計	千円	598	639	398	418	398	398	398	398
トータルコスト(A)+(B)		千円	629	668	480	499	502	498	498	498	

事務事業名	ボランティア表彰等事業	所属部	市長公室	所属課	企画課
-------	-------------	-----	------	-----	-----

2 評価の部（CHECK）

*原則は5年度の事後評価、ただし複数年度事業は5年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5年度目標達成度評価	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【原因】 市内小中学校へ依頼することで例年より多くの推薦をいただくことができた。目標達成にいたるまでボランティアをしている人たちの掘り起こしが上手くできなかった
	② 6年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 区長をはじめ市内小中学校、ボランティア連絡協議会などに依頼を行うことで、目標達成を図る。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 ボランティア表彰を行なっていくことで、市民にボランティア活動の輪が広がっていくことになり、ボランティア活動が促進される。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 令和6年度からは、11554（合志市ふるさとサポーター事業）、11555（人材（財）バンク登録事業）を統合
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の予算であり、削減の余地はない。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最小限の人数で可能な限り効率的な業務を行っている。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 ボランティア活動を行っている市民全員が対象であり、公平である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 役割分担は適さない。

3 評価結果の総括（CHECK）

ボランティア活動されている多く個人、団体の推薦があり、推薦者の頭打ちのため、今後の推薦者が減少することが考えられるが、多くのボランティアの表彰ができ、気運の向上が図られたことにより、新しいボランティアが誕生していると考えられる。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可				(2) 改革・改善による期待成果			
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☒ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善）				（廃止・休止の場合は記入不要）			
☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善）							
☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）							
令和6年度からは、11554（合志市ふるさとサポーター事業）、11555（人材（財）バンク登録事業）を統合							

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策